

様式1－2 学位申請書の記入要領（乙）

		年 月 日
〇〇学府長 殿		
本 籍	注1	
氏 名		注2
学 位 申 請 書		
貴学学位規則第16条により、博士の学位を受けたいので、下記のとおり関係書類を添え、学位論文を提出いたします。 なお所定の手数料を納入いたします。		
記		
1 主 論 文	1 編 冊 通	注3
2 参考論文	編 冊 1通	
3 論文目録		
4 論文要旨		
5 履 歴 書		

注1.

本 籍

→ 都道府県名（外国籍の場合は国籍（国名））を記入する。

国名は、在留カードにある国名表記を原則とする。

※中華人民共和国→「中国」、大韓民国→「韓国」等

注2.

氏 名

→「履歴書の氏名欄」に記載されている氏名表記（日本国籍の者の場合は漢字、外国籍の者の場合はカタカナもしくはアルファベット。）を用いること。なお、指定がある場合を除き、学位論文審査手続きの書類においては表記を統一すること。（ある書類の氏名をカタカナにしたら履歴書以外の他の書類もカタカナとする。）

注3.

主 論 文 1 編 冊 通 ←（1冊1通を原則とするが、学府の定めによりそれ以外でも可）

参考論文 編 冊 1通 ←（編数・冊数は提出に合わせて記入する）

*参考論文を添付しない場合は、消線を付すこと。 （例）参考論文—編—冊—1通

記載例

注3 主論文

- ・主論文の「論文題目」は、本文と同じ言語によるものとする。
- ・論文題目が外国語の場合、和訳を（ ）カッコ書きで付記すること。なお、和訳は審査手続き上の書類に書かれる事項であって、題目には含まれないことに注意すること。
- ・以下の①～⑥に記載する「論文題目」は全て同一であること。なお、論文題目が外国語の場合、大文字・小文字といった表記も同一とすること。また、③～⑥は論文題目に加えて、和訳も同一であること。

①論文の「表紙」および「背表紙」	②論文の「中表紙（あれば）」
③論文目録（様式2）	④論文要旨（様式3）
⑤学位（博士）論文審査結果報告書（様式5）	
⑥論文審査の結果の要旨及びその担当者（様式6-1、6-2）	

(例／論文題目が外国語の場合の表記の一致について)

- (a) Molecular Analyses of Early Embryogenesis in ～
- (b) Molecular analyses of early embryogenesis in ～
- (c) MOLECULAR ANALYSES OF EARLY EMBRYOGENESIS IN ～

例えば (a) にする場合は、全て (a) に統一する。

注4 主論文を構成する学術論文等

- ・主論文を構成する学術論文等は公表年月順に列記する。昇順でも降順でも差し支えないが、審査側がわかりやすい記載とすること。
- ・公表年月は「年月日」まで記載することが望ましいが、難しい場合は「年月」でも可とする。
- ・未公表の論文の場合は、公表予定の「方法」「時期」「原稿枚数」を記入する。
- ・公表または公表予定がない場合、投稿予定を記載する。
- ・公表予定を記載する場合は、公表時期が決まり次第連絡すること。

注5 参考論文

- ・公表年月順に列記する。昇順でも降順でも差し支えないが、審査側がわかりやすい記載とすること。
- ・公表年月は「年月日」まで記載することが望ましいが、難しい場合は「年月」でも可とする。
- ・参考論文を添付しない場合は、「なし」と記入すること。
- ・参考論文がインターネット上のみで公表されるものを記載する場合は、「掲載されるサイトの名称」「URL」「公表の時期」「共著者名」を記載すること。

【事務担当者へ】

- * 「論文目録」様式の欄外に、右の確認照合を付すこと。
- * 担当者は、本様式にて記載された論文目録等における各項目（氏名、題名等）の照合を行い、空欄に、チェックすること。

確 認 照 合	
主論文自著確認	
論文目録照合	

記載例

[illegible]

- * 本文の文字サイズは10.5ポイント（「論文内容の要旨」の文字は12ポイント）
1行の字数44字、行数42行、余白（左右20mm・上下25mm程度）をあげ、頁数は記入しない。
- * 論文内容の要旨は、**A4サイズ**に2000字程度（最大2頁以内を目安）にまとめる。
- * 図表・図式等は随意に使用する。

注2 論文題目については「様式2 論文目録の記入要領（甲・乙共通）」の「注3 主論文」を参照すること。

8

様式4 履歴書の記入要領（甲・乙 共通）

記載例

*区分及び性別は、いずれかに
○印を付すこと。

履 歴 書

区 分 甲 乙

ふりがな
氏 名
生年月日

(例)

きゅうだい たろう
九大 太郎
Kyudai Taro

ホァンツ ウエイ
Hyang Chih Wei
黄 志 偉

モハメッド アブドゥル
Mohammed Abdul

男

女

*生年月日：和暦及び西暦で記載する。
平成2（1990）年1月1日

本 籍
(都道府県名)

*都道府県名のみを記載
*外国人の場合は、国名を記載する。(在留カードにある国名等)

現 住 所

〒□□□-□□□□

*正確な住所を記載する。

学 歴

平成24年3月25日 九州大学△学部△△学科卒業
平成24年4月1日 九州大学大学院△学府△△専攻修士課程入学
平成26年3月25日 同上 修了
平成29年4月1日 九州大学大学院○学府○○専攻博士後期課程編入学
現在に至る

新制大学卒業または
最終学歴から順に記
載する。(前歴は不要)

*九州大学における大学院入学・進学の区分に注意。
*平成11年度入学者まで「研究科」、平成12年度以降「学府」と記載する。
*中途退学＝「退学」、単位修得の上退学＝「単位修得退学」と記載する。
*研究生歴は学歴に記入しない（研究歴に含める）。

年月日を記入する

職 歴

平成26年4月1日 ××株式会社 採用
平成27年4月1日 ◎◎株式会社 (旧名××会社 平成26年10月1日社名変更)
○○研究所 配置換
平成28年3月31日 同上 退職
平成30年4月1日 日本学術振興会特別研究員採用
現在に至る

*日本学術振興会特別研究員の期間は、職歴に記載
し、研究歴では大学院在籍の形で記載する。

研 究 歴

平成24年4月1日 } 九州大学大学院△学府において、○○について研究
平成26年3月25日 }
平成27年4月1日 } ◎◎株式会社○○研究所において、○○について研究
平成28年3月31日 }
平成28年4月1日 } 九州大学大学院○学府において、研究生として○○に
平成29年3月31日 } ついて研究
平成29年4月1日 } 九州大学大学院○学府において、○○について研究
現在まで }

*研究した事項とその期間を明記する。
*学歴及び職歴に記載した期間中に研究歴
に該当する場合は記載する。

上記のとおり相違ありません。
令和2年2月15日

氏 名 ○○ ○○

氏 名

- 1) 日本国籍者の氏名については、ふりがな・漢字・アルファベットを、外国籍者の氏名については、**カタカナ・アルファベット**を必須とし、**漢字**もあれば記載すること。(氏名の順番等は、パスポートや在留カードと照合し、学籍氏名も含めてできるだけ統一させる。)

(例)

①日本国籍の場合

きゅうだい たろう
九大 太郎
Kyudai Taro

②中国・韓国等(漢字圏)の場合

ホアンツ ウエイ (カタカナ)
Hyang Chih Wei (アルファベット)
黄 志 偉 (漢字)

③(非漢字圏)の場合

モハメッド アブドゥル (カタカナ)
Mohammed Abdul (アルファベット)

- 2) 「履歴書の氏名欄」に記載されている表記を博士學位論文審査申請関係書類における氏名の基準とする。よって、関係書類は「履歴書の氏名欄」に記載されている氏名表記のうち、漢字・カタカナ・アルファベットのいずれかを用いて作成すること。
- 3) 氏名表記に使用する漢字は、日本国の常用漢字とする。

生年月日

- 「和暦」及び「西暦」を記載する。 例：昭和51(1976)年1月1日
平成 2(1990)年1月1日

本 籍 (都道府県)

- 都道府県名(外国籍者は国籍(国名))のみを記載する。
国名は、在留カードにある国名表記を原則とする。
※中華人民共和国→「中国」、大韓民国→「韓国」等

現住所

- 住民票に記載されている住所を(郵便番号)及び都道府県名から記載する。
郵便番号、団地名、宿舍名、番号等を正確に記載すること。また、提出後変更があった場合は、速やかに届け出ること。

学 歴

- 1) 新制大学卒業以後または最終学歴から、年月日の順を追って正確に記載すること。
- 2) 入学・修了等の年月日に合わせて、大学名、学部・研究科名、学科・専攻名、修士課程・博士課程・博士後期課程の別を記載する。
- 3) 本学における大学院入学・進学の区分に注意する。(→様式1-1の説明を参照。)
在籍中の場合は、「現在に至る」とし、中途退学は「退学」、単位修得の上退学は「単位修得退学」と区別して記載する。
- 4) 本学大学院研究科の再編時期について、以下、注意すること。
昭和60年度入学者(～S61.3.31)まで「医学研究科」、それ以降は「医学系研究科」
平成11年度入学者(～H12.3.31)まで「研究科」、それ以降は「学府」
- 5) 研究生歴は学歴に含めない(研究歴に含める)。

職 歴

- 1) 年月日の順を追って、採用・退職等を記載する。
在職中の場合は、最後に「現在に至る」を記載する。
- 2) 常勤の職について記入する。
但し、非常勤の職であっても、特に研究に関するものについては記載できる。
- 3) 職歴がない場合は、「なし」と記載する。
- 4) 日本学術振興会特別研究員の採用期間は、職歴に記載し、研究歴では大学院在籍の形で記載する。
- 5) 在職中の会社や組織の名称変更がある場合は、以下のように記載する。
(例)「△△会社 (旧名××会社 平成●年●月●日社名変更)」
「××会社 (平成●年●月●日△△会社に名称変更)」等
- ※「九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院 (呼称：九州大学病院)」の名称は、平成15年10月から使用。
- 6) 九州大学での TA (ティーチング・アシスタント) 及び RA (リサーチ・アシスタント) は職歴には記載しない。

研究歴

- 1) 研究した事項とその期間を明記すること。学歴又は職歴に記載した期間中に研究歴に当たるものがある場合は、それについても記入すること。
- 2) 修士課程の期間から研究歴に含めることができるが、学部は含めない。
但し、研究生の期間を含めることができる。その際、「研究生として」を必ず記載する。
- 3) 同一研究歴が複数の組織にまたがる場合は、組織名を「及び」で結んでまとめて記載しても良い。
(例) 九州大学大学院工学府及び日立製作所中央研究所において、△△△に関する研究
- 4) 研究継続中の場合は、「現在まで」と記載する。
- 5) RA (リサーチ・アシスタント) は研究歴に含めることもあるが、九州大学での RA については、研究歴に含めない。(TA は研究と関係ないので含めない。)
- 6) 個人的に研究室にて指導を受けた場合については、研究歴に含むことができない。(研究生として在籍すべき)

別 紙

学位記に記載する氏名等について【記入例】

〈漢字氏名〉 ※フォントは「HG 正楷書体-PRO」です。	(例：日本人) 高橋 太郎 (例：留学生) 华 雪峰
〈カナ氏名〉 ※フォントは「HG 正楷書体-PRO」です。	(例：日本人) タカハシ タロウ (例：留学生) カ セツホウ
〈英字氏名〉 ※フォントは「HG 正楷書体-PRO」です。	(例：日本人) TAKAHASHI Taro (例：留学生) HUA XUEFENG
授与決定通知 送付先メールアドレス ※「s.kyushu-u.ac.jp」以外の アドレスであることが望ましい。	※本学修了後も継続して使用できるメールアドレスを記載すること。

*本様式に記載されている文字を学位記に記載しますので、各項目を正確に漏れなく記載願います。

*学位記は原則として再発行しないことを鑑み、学位記の氏名表記（漢字や表記順等）は、申請者の希望により、学籍等との表記とは一致せずとも良いものとします。ただし、学籍の氏名表記と異なる表記とした場合、本学が発行する各種証明書の氏名表記と学位記の氏名表記に差異が生じる可能性があり、また、差異が生じた際の同一人物であることの証明は、申請者本人が行うこととしますのでご留意ください。

*和文学位記の氏名表記

日本国籍及び漢字圏の外国籍の場合＝「漢字氏名」欄の表記を使用

漢字圏以外の外国籍の場合＝「カナ氏名」欄の表記を使用

*英文学位記

日本国籍者の場合＝「英字氏名」欄の表記を使用。

- ・ヘボン式ローマ字とすること。（パスポートを取得している人はパスポートどおり）
- ・表記順は姓→名とし、姓は全て大文字、名は頭文字のみ大文字とする。

例) 九大 太郎 → KYUDAI Taro

外国籍者の場合＝「英字氏名」欄の表記を使用。

- ・文字の記載は原則としてパスポートどおりとすること。
- ・原則すべて大文字とする。
- ・表記順は希望（出身国の慣習等）でも可とする。

*氏名に PC・ワープロ等で出力されない異体字等が含まれる場合は、手書きで記載願います。ただし、異体字等は本学が発行する各種証明書の表記に用いることはできない可能性があり、学位記との表記に差異が生じる可能性があることについてご留意ください。

*旧姓使用又は通称名使用に伴い、上記氏名が学籍（戸籍）氏名と異なる場合は、「学位記記載の氏名表記届」を併せて提出願います。

*授与決定通知は、学位授与が決定次第、上記メールアドレスに送付します。